

平成 17 年 3 月 7 日

本田財団『国際シンポジウム 2005 ハノイ』をベトナムで開催

本田財団（設立者・本田宗一郎、理事長・川島廣守）は、2 月 28 日(月)、ベトナム科学技術省国立科学技術政策戦略研究所（略称：NISTPASS）と共催で、ハノイ中心部のメリア・ホテルにおいて、「イノベーションと経済発展：ベトナムに於ける起業家精神」と題する国際シンポジウムを開催した。

近年特に著しい経済発展を遂げつつあるベトナムにおいて、財団の提唱する「エコ・テクノロジー」の有り方、すなわち人間活動を取り巻く環境全体との調和をはかった成長の道筋を討議し模索することが狙い。後援は、在ベトナム日本大使館と、二輪車を現地生産しているホンダ・ベトナム。

本田財団は創設以来、そのユニークな活動の一環として、世界の学者や専門家が自由に知識と経験の交流をはかる場を提供する目的で、各国でシンポジウムなどを自ら開催してきた。一貫するテーマは、人間性あふれる文明の創造に寄与するための「エコ・テクノロジー」という技術概念。

ベトナムは、1986 年に打ち出された経済改革ドイモイを経て、積極的に市場の開放と、外資の導入を進めて来た。加えて識字率 93%以上という高い教育水準と勤勉な国民性により、遅れて加盟を果たした ASEAN 諸国の中でも、最も高い約 7%もの経済成長率を近年継続している。

シンポジウムでは、日本とベトナムおよびタイからも代表的な研究者 20 名を招き、このベトナムにおいて、技術や資本の外部導入を中心とした「追いつけ追い越せ型」の成長モデルから、創造性にあふれ人間や環境にも目配りした、科学技術と経済の持続的発展のための知恵と方策について、研究成果や意見が交換された。

聴衆は、ベトナム政府の政策担当幹部、主要な研究機関・大学の職員や学生など、約 200 名が参加、熱心に発表に聞き入っていた。日本の本田技術研究所からは最先端の環境技術を紹介。合わせて会場内で、燃料電池やハイブリッドシステムを搭載したスクーターのデモンストラレーションも行われた。これらの模様は、ベトナム国営テレビ、新聞などにも紹介され、一般市民の関心も呼ぶこととなった。

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目 6 番 20 号

電話 03-3274-5125 FAX 03-3274-5103

本田財団 シンポジウム事務局

ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/hf/>